



第25回 大阪府障がい者スポーツ大会

令和7年5月11日(日)万博記念競技場にて
第25回大阪府障がい者スポーツ大会が開催されました。
スポーツ鍼灸プロジェクト委員会の先生方が参加選手の
ボディケアとして参加。
ブース利用者 36名。救急搬送者 0名。



CONTENTS

F1 第25回大阪府障がい者スポーツ大会

F2 高槻クロスカントリー お礼状

訂正とお詫び

F3 八尾柏原地域55周年特別記念
講演報告

公益社団法人大阪府鍼灸師会
主要行事予定表

F4 【学術講習会報告】
構造から考察する運動器障害の
鍼灸治療 上肢編

F5 【学術講習会報告】
構造から考察する運動器障害の
鍼灸治療 上肢編

F6 霊枢勉強会報告

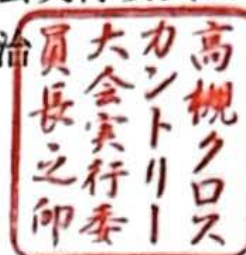
F7 霊枢勉強会報告

F8 令和7年度6月研修事業のご案内

高槻クロスカントリー お礼状

令和7年4月吉日

ご協力・ご協賛団体 各位

高槻クロスカントリー大会実行委員会
実行委員長 八十 祐治

第26回高槻クロスカントリー大会について（お礼）

春暖の候、各位におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

第26回高槻クロスカントリー大会の開催につきましては、格別のご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

おかげさまで、高槻市民を中心に1,245人のランナーと約2,000人の観戦、応援の皆様の参加のもと盛大に開催することができました。

大会当日は天候にも恵まれ、3キロ、8キロの高低差約60Mの本格コースと、小学生限定の1マイル、1キロコース、ファミリー対象の1キロコース等の各種目に5歳から81歳の参加者の頑張っておられる姿と、家族の触れ合いを楽しみながらランニングする明るい笑顔が印象的な大会となりました。

このように大会を成功裡に実施することができましたのも、ひとえに格別のご支援、ご協力をいただいた皆様のおかげと深く感謝している次第でございます。本当にありがとうございました。

今後も、参加者及び市民の皆様が安全に楽しんでいただける大会となるよう取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《 訂正とお詫び 》

令和7年4月発行のフレッシュ No.325号 F6 ページ学術講習会報告「鍼灸師の未来像となり得る電子カルテの活用方法」にて電子カルテ「COMO」が大阪府鍼灸師会の会員に提供予定と記載されておりましたが、現在提供の予定はございません。

ここに記事の訂正とお詫びを申し上げます。

※電子カルテ「COMO」・・・臨床用カルテであって療養費の施術録とは異なります。



八尾柏原地域 55 周年特別記念講演報告

八尾柏原地区、55 周年特別記念講演として、2025 年 3 月 30 日日曜日 13 時 30 分～谷岡賢徳先生の講演が開催されました。関東の方もお越しになられ計 20 名の参加になりました。

「鍼灸の歴史と発展」をテーマに、西洋医学と東洋医学の生い立ち、施術者の体表観察と治療方法、八尾柏原地区の生い立ち等の講演がありました。

そして実際に治療所に来院されている 2 歳から 5 歳の患者様が数名開場へお越しになられての小児鍼施術の実演があり、また参加者への大師流治療がありました。

質疑応答の時間もあり、参加者全員の声を聞いてくださりました。一人一人へ実体験を交えながらの丁寧な解答はとても楽しく、全く時間が足りない程でした。

この度、先生、ご来場くださった方、患者様、ご協力くださった方、皆様のお陰で無事に開催する事ができました。当日は至らないこともあったかと存じますが、この経験を元に引き続き精進して参ります。

本当にありがとうございました。



公益社団法人 大阪府鍼灸師会 主要行事予定表（5月15日現在）



1. 令和7年6月予定

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
7	土	民生労災審査・相談会	会館2階	15:00～
8	日	霊枢勉強会	会館3階+WEB配信	10:00～

2. 令和7年7月予定

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
3	木	第4回正副会長会議	会館2階	20:00～
6	日	第4回理事会	会館4階	13:00～
7	月	生保労災 審査・相談会	会館2階	15:00～
13	日	霊枢勉強会・学術研修会	会館3階+WEB配信	10:00～
27	日	療養費適正化講習会	森ノ宮医療学園アネックス校舎	13:30～

3. 令和7年8月予定

日	曜日	主要行事	場 所	開催時間
5	火	会費引き落とし日		
7	木	生保労災 審査・相談会	会館2階	15:00～
9～10	土日	令和7年度 理事・監事・地域代表者一泊研修会	京都 聖護院御殿荘	
10	日	霊枢勉強会	会館3階+WEB配信	10:00～

「構造から考察する運動器障害の鍼灸治療」 ～上肢編～

関西医療学園専門学校非常勤講師
川崎針灸院院長 川崎 勝巳先生

ちょうど1年前の令和6年5月の研修では、下肢の構造から考察する運動器障害について研修をしていただきましたが、今回は、上肢の構造と役割を理解し、上肢に障害が生じた時にどこに原因があるのかを把握して、治療および再発防止に向けた指導について学びました。

まず、構造を知る上で、人間の上肢の進化について解説されました。四足で歩行する哺乳類の後肢は、仙腸関節によって仙骨と寛骨が結合していますが、前肢には鎖骨がなく、前肢との間接性連結を持たずに遊動しています。これは、後肢が地面を蹴って前進する遠心性の機能を持つのに対して、前肢がその運動による衝撃を受け止め、エネルギーを吸収することによって運動をコントロールする求心性の機能を持つためです。類人猿は四足歩行哺乳類と違い、樹上三次空間を移動するために多用な動きに適合し、枝の上を四足と長い尾で移動する。あるいは、懸垂と木登りを組み合わせた運動を行う。あるいは、振り子のように体を振りながら代わる代わる手を替えて移動するブラキエーション：雲梯（うんてい）運動により、上肢の機能が伸展運動から屈曲運動へと大きく転換し、上肢を長くし、肘頭を小さくして肘関節が完全に伸展できるようになり、手がより遠くに届くようになりました。同時に枝を握り、餌を掴む手が独自の進化をたどり、器用に道具を扱う上肢となり、最も重要な効果器となり、樹上生活から地上に降り、日常的に上肢を下垂し、武器を投げて狩猟をし、スポーツなどの過度な遠心性の運動を肩に要求することになりました。肩関節は手をあらゆる方向に動かすための可動性が求められ、複数の関節を複合的に動かす、他の哺乳類に見られない特異な進化である、懸垂運動（安定したバランスと多用な支持基本の利用を可能とする運動）を得ました。肘関節、手関節、手指関節も独自の進化を遂げています。

この構造が分かれば、その関節の弱点も分かり、肩関節では、関節窩が浅く接地面積が小さい非常に不安定な球関節です。関節運動は外転と内転で、その他の動き（回旋）には大きなストレスがかかります。特にペインフルアーク（肩を挙上するとき、あるいは挙上した位置から下ろしてくるとき、ほぼ60-120°の間で特に強い痛みを感じることがあり、有痛弧徴候（ペインフルアーク）といわれます。）での大結節の軌道は周囲軟部組織に対する炎症や損傷の原因となります。肘関節では、ぶら下がりに適応した上腕骨滑車の角度は伸展するに従い外反が強くなり、外側上顆炎（テニス肘）になりやすいです。前腕は長時間に及ぶ握りは短橈側手根伸筋に多大なストレスを与え、手関節では、ぶら下がりに適した手関節（特に尺側）は衝突に弱く、手をつくときと良くないそうです。

構造とその構造の弱点を知り得れば、各関節の障害がどのような部位で起こっているのか、いくつか仮説を立てることが出来、その仮説が間違っていれば、次の仮説へと検証でき、経絡や証を決めてしまわないことであると言われていました。

次に障害について、肩関節では①インピジメント②中高年のインピジメント（腱板損傷）③



学術講習会報告

「構造から考察する運動器障害の鍼灸治療」 ～上肢編～ (つづき)

五十肩④石灰沈着⑤滑液包炎⑥上腕二頭筋長頭腱炎について、肘関節では①野球肘②テニス肘③上腕骨外側上顆炎について、詳細に解説して頂きました。

後半の実技指導の中で治療法も被験者の肩関節の動きを見ながら肩関節運動痛の解釈と痛みの改善と動きの改善について指導されました。

肩関節運動痛は大結節が肩関節屈曲や外転運動において、60°～120°の時期に肩峰から烏口肩峰靭帯付近に最も近づき、いかに大結節が烏口肩峰アーチを通過するかが問題となります。

球関節の肩甲上腕関節に回転中心を外す外力がかかると周辺軟部組織に炎症が起こります。肩関節の痛みの改善には、表面から深部にスペースを確保し、軟部組織の滑走を滑らかにする筋膜リリースを行います。次に関節可動域の改善として、胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲上腕関節、肩甲胸郭関節を緩ませる手技と置鍼を行い、周辺筋群（大胸筋・小胸筋・広背筋・菱形筋・肩甲挙筋）の緊張緩和を更に取りながら、遠隔治療として、筋肉の緊張を緩和する穴として、手の三里（長撓側手根伸筋）と手の陵下（尺側手根伸筋）を使うそうです。

肩関節の痛みがあり、動かせないような五十肩は、無理に動かさず、両手を肩に当てて肩を回す運動をさせ、痛みのため運動制限が続く拘縮が出てきても、治すことを目的とするので、痛むことは全くしないとのことでした。また、血流を良くすることが大切で、鎮痛のためにアイシングは逆効果で、温めて炎症を促進させる方が良く、鍼も筋中に刺しても意味がなく、脂肪層を超えて靭帯の抵抗ある所を刺していくのだと、とても細かく指導していただきました。

人類への進化の過程で、どのように骨や関節が変化し、どのように動く構造をしているかを理解すれば、先生も言われた構造上の弱点がわかり、傷める部位もわかります。また、日常のどのような動きが良くないか？も推測できます。東洋医学的に治療をして、その時は痛みが一時的に抑えられ良くなったとしても、日常で同じ動きをすれば、再発を繰り返すこととなり、更に悪化する可能性があります。原因をきちんと考察することの大切さを改めて考えさせられました。

研修委員 鍼灸専門院めぐり 思川裕子





霊枢勉強会報告

〈講師〉日本鍼灸研究会代表

篠原 孝市 先生

〈会場〉大阪府鍼灸師会

会館3階

第48回

令和7年(2025年)3月9日(日)

〈出席者〉会場参加者 15名

○『黄帝内経靈樞』脹論(ちょうろん)第三十五 第二章(一部を抜粋)

○01 黄帝曰。 02 何以知藏府之脹也。

01 黄帝(こうてい)曰(いわ)く、02 何を以(もつ)て藏府(ぞうふ)の脹(ちょう)を知らん、と。

(解説)

*腹部に藏(ぞう)や府(ふ)があることを前提として、藏府(ぞうふ)に脹(ちょう)はどのように関わってくるのかと、黄帝(こうてい)が岐伯(きはく)に問いかけている。

*五藏(ごぞう)の脹(ちょう)というのは、それぞれ「肺の脹(ちょう)」であるとか「腎の脹(ちょう)」、「心の脹(ちょう)」などに分れている。

○03 岐伯曰。04 陰爲藏。05 陽爲府。

03 岐伯(きはく)曰(いわ)く、04 陰(いん)は藏(ぞう)爲(た)り、05 陽(よう)は府(ふ)爲(た)り、と。

(解説)

*岐伯(きはく)は、藏(ぞう)と府(ふ)は陰と陽に分れるのだと答えている。

○06 黄帝曰。07 夫氣之令人脹也。08 在于血脈之中耶。09 藏府之内乎。10 岐伯曰。11 三(一云「二」字)者皆在焉。12 然非脹之舍也。

06 黄帝(こうてい)曰(いわ)く、07 夫(そ)れ氣(き)の人(ひと)をして脹(ちょう)せしむるや、08 血脈(けつみやく)の中(なか)に在(あ)るか、09 藏府(ぞうふ)の内(うち)か、と。

10 岐伯(きはく)曰(いわ)く、11 三つ【一(いつ)に云(い)う、「二(に)」の字と。】の者(もの)、皆(み)な存(そん)す。12 然(しか)れども脹(ちょう)の舍(しゃ)に非(あら)ず、と。

(解説)

*07節で黄帝(こうてい)は岐伯(きはく)に、「脹(ちょう)」という病(やまい)は「氣(き)」が原因で起るのであるが、と前置きをした上で尋ねている。

*「氣(き)」とは何か、これはからだの中のさまざまな機能的なもののあらわれだと、ひとまず考えておこうか。「氣(き)」というものが先ず有り、氣(き)が原因となって「脹(ちょう)」というものが起こる。それを前提とした問いかけであろう。

*08~09節で「脹(ちょう)」というものが、からだの浅い部分の「血脈(けつみやく)」という部分にあるのか、それとも藏府(ぞうふ)の内側に、それが起こるのかを黄帝(こうてい)は、岐伯(きはく)に尋ねている。

*10~11節で、岐伯(きはく)はこのように答えている。

「氣(き)」というものが影響を与えて、血脈(けつみやく)と藏府(ぞうふ)、この二つ(*三つは誤り)に関わって「脹(ちょう)」というものは起こる。」

*11節の「三つ」は『太素(たいそ)』および『甲乙經(こういつきよう)』という本では「二つ」と記載されている。

*12節「脹(ちょう)の舍(しゃ)に非(あら)ず」というのは「脹(ちょう)がとどまっている具体的な場所ではない。具体的な場所は別にあるのだ。」と言っているのだろう。

*楊上善(ようじょうぜん)という人は、このように言っている。

「衛氣並脈而行循分肉之間爲脹。血脈及五藏六府各脹、故曰二者在焉。然非脹之所舍處也。」

これを読んでみると、

【衛氣(えき)、脈(みやく)に並(なら)びて、行(ゆ)きて分肉(ぶんにく)の間(かん)を循(めぐ)り、脹(ちょう)を爲(な)す。血脈(けつみやく)及び五藏六府(ごぞうろっふ)、各々の脹(ちょう)、故(ゆえ)に二者(に)しゃ)存(そん)すると曰(い)う。然(しか)り、脹(ちょう)の所舍(しよしゃ)する處(ところ)に非(あら)ず。】

衛氣(えき)によって脹(ちょう)というものが起こるのだという叙述が後にあり、その文章を先取りして彼は説明している。血脈(けつみやく)や五藏六府(ごぞうろっふ)に各々、脹(ちょう)というものがある。肺(はい)の脹(ちょう)や、腎(じん)の脹(ちょう)、脾(ひ)の脹(ちょう)などがある。そこで二者、血脈(けつみやく)と五藏六府(ごぞうろっふ)があると云っている。しかし、そこは脹(ちょう)が具体的に起こる場所ではない、そんなことを言っている。

姚宗(ようそう)という人は、藏府と血脈で三者と解釈した上で、このように解釈している。「此病在氣、而及于藏府血脈之有形、故三者皆存焉。【此(こ)の病(やまい)氣(き)に在(あ)り。而(しか)して藏府(ぞうふ)血脈(けつみやく)の形(かたち)有るに及(およ)び、故(ゆえ)に三者(さんしゃ)皆(み)な存(そん)す。】」

*張介賓(ちょうかいひん)という人は、その著作『類經(るいきよう)』において、このように記している。

「舍、言留止之處也。【舍(しゃ)、留止(りゅうし)する處(ところ)を言うなり。】」

*つまり「脹(ちょう)」が具体的に ある場所が舍(しゃ)なのだと云っている。

*もう一度、06節から12節までを説明する。血脈や藏府(ぞうふ)に関わって「脹(ちょう)」というものが起こる。しかし具体的には藏府(ぞうふ)と皮膚の間に、そのあらわれとして「脹(ちょう)」が起こるのだということが、述べられている。

○13 黄帝曰。14 願聞脹之舍。15 岐伯曰。16 夫脹者。17 皆在于藏府之外。18 排藏府。19 而郭胸脇。20 脹皮膚。21 故命曰脹。

13 黄帝(こうてい)曰(いわ)く、14 願(ねが)わくは脹(ちょう)の舍(しゃ)を聞かん、と。15 岐伯(きはく)曰(いわ)く、16 夫(そ)れ脹(ちょう)は、17 皆(み)な藏府(ぞうふ)の外(そと)に在り。18 藏府(ぞうふ)を排して、19 胸脇(きょうきょう)を郭(かく)とし、20 皮膚に脹(ちょう)す。21 故(ゆえ)に命(な)づけて脹(ちょう)と曰(い)う、と。

(解説)

*馬蒔【ばじ、馬玄臺(ばげんだい)も同一の人】は、このように言う。「夫脹不在于血脈之中。亦不在于藏府之内、乃在于藏府之外、胸脇之内、排其藏府、而以胸脇爲郭、其皮膚亦爲之脹、此則脹之所舍也。【夫(そ)れ脹(ちょう)は血脈の中には在(あ)らず。亦(ま)た藏府(ぞうふ)の内(うち)にも在(あ)らず。乃(すなわ)ち藏府(ぞうふ)の外、胸脇(きょうきょう)の内(うち)に在り。其(そ)の藏府(ぞうふ)を排し、而(しか)して胸脇(きょうきょう)を以(もつ)て郭(かく)と爲(な)し、其(そ)の皮膚も亦(ま)た、之(これ)脹(ちょう)と爲(な)す。此(こ)れ則(すなわ)ち脹(ちょう)の舍(やど)る所(ところ)なり。】」

*『靈樞』の森を歩いてみませんか。毎月休まず第二日曜午前10時から12時まで、大阪府鍼灸師会館3階です。勉強会の案内につきましては本会ホームページをご確認下さい。

次回は5月11日(日)、『靈樞』『五閱五使(ごえつごし)第三十七』です。『靈樞(れいすう)』が伝える先達(せんだつ)の何か、そいつを感じてみませんか。どこからでも興味のある篇の受講、大歓迎です。会場はライブ感がありますし、web受講は自宅でも出来ますので、どうぞご参加ください。

(靈樞のテキスト〈日本内経医学会 発行、明刊無名氏本〉は現在1冊の在庫があります。1冊1,600円です。受講申し込み時、または当日、受講受付けにてお問い合わせください)

(靈枢勉強会世話人 東大阪地域 松本政己)



靈枢勉強会報告

第49回

令和7年(2025年)4月13日(日)

〈出席者〉一般10名 会員(準会員、日鍼会、全日学会員含む) 14名
4月度は会場 15名、web 9名でした。○『黄帝内經靈樞』 五癰津液別(ごりゅうしんえきべつ)
第三十六 第二章(一部を抜粋)

○01 黄帝問于歧伯曰。02 水穀入于口。03 輸于腸胃。 04 其液別爲五。

01 黄帝(こうてい)、歧伯(きはく)に問うて曰(いわ)く、
02 水穀(すいこく)、口(くち)に入(い)りて、03 腸胃(ちょう
うい)に輸(ゆ)す。04 其(そ)の液(えき)、別れて五(いつ)
つと爲(な)る。

(解説)

*黄帝(こうてい)が歧伯(きはく)という人に問うた。 水穀(すいこく)、つまり食物が口に入って腸胃(ちょうい)に運ばれる。 腸胃(ちょうい)というのは口から肛門までの間、おなかの部分の全体を言う。 腸と胃という言葉は現代医学の言葉として使われているので、ここに出てくる「腸胃(ちょうい)」とどうしても混同されてしまう。ここでの「腸胃(ちょうい)」というのは、あくまでも口よりも下、肛門よりも上の部分のことを示している。

*03節の「輸(ゆ)」は、輸出、輸入の「輸」である。 運ばれるという意味がある。

*水穀(すいこく)から、液が出て来る。 それは五つに分かれる。

*液(えき)というのは「津液(しんえき)」をすべて称して、「液」と言っているのであろう。「津液」は五つに分かれるということを言っている。

○05 天寒衣薄。06 則爲溺與氣。

05 天(てん)寒く衣(ころも)薄ければ、06 則(すなわ)ち溺(によう)と氣(き)とを爲(な)す。

(解説)

*寒い日で、着ているものも薄いものを着ていると、溺(によう)と氣(き)とをなす。 ここで「溺」は「によう」と読む。「溺(でき)」ではない。「溺(でき)」だと水に溺(おぼ)れてしまうことになる。

*馬玄臺(ばげんだい、馬時も同一人) はこのように言う。

「天(てん)寒ければ、則(すなわ)ち腠理(そうり)閉じ、内(うち)の氣(き)と濕(しつ)俱(とも)に行かず。(氣と水湿というものが動かない状態になる。)

其(そ)の水(みず)下りて膀胱(ぼうこう)に留(とど)まる。(ここで「水」とは「水濕(すいしつ)」のことである。)

則(すなわ)ち前(まえ)の溺(によう)と後ろの氣(き)を爲(な)す。(「*後の氣」というのが難解な、しかし何も説明していないなと感じさせるところではある。)

*『靈樞經校釋(れいすうきょうこうしゃく)』上冊の532頁にはこのように書かれている。

「溺與氣」：《傷寒論》成注卷五引無。」

【『傷寒論』の成(せい)という人の注、卷(けん)の五には、「溺與氣」の二字はない。】

*この本では「溺與氣」という文字はもともと無かったのではないかと、何となく匂わせているように思える。

*郭霽春(かくあいしゅん)氏も『傷寒論(しょうかんろん)』の同じ箇所を同じように指摘している。しかし、氏は「溺與氣」という二文字はあるべきだと言う。

寒い日のひとのからだというものは、「氣(き)」というものをめぐらせて、そのため水濕(すいしつ)が多くなる。寒い日というのは、人のからだの中で、その寒さに対応するため熱を生じるのである。「氣(き)」というものをめぐらして、そのために水濕(すいしつ)が多くなる。そして小便がたくさん溜まるようになる。

*郭霽春(かくあいしゅん)氏は、汗や溺(によう)も含めて津液(しんえき)というものは五つに分かれると言っている。そのうちの一つのもの、寒さによってあらわれた氣(き)というもの、それが水濕(すいしつ)を多くさせるのだと言う。外が寒いとからだの中に熱を生じて、その寒さに対抗しようとする。からだの中に熱があると水液がめぐる。

そうすると小便がたまるというふうなことだと思う。ただし「溺與氣」という二文字は問題があるように思う。

*周海平(しゅうかいへい)という人は「溺與氣」は衍文(えんぶん、誤って書き入れられた文)なので、この二字は取り去るのが良いという。郭霽春(かくあいしゅん)氏とは異なった見解をしている。

*『靈樞經校釋(れいすうきょうこうしゃく)』の上冊532頁(ページ)にはこのような記述がある。

「溺(niao)溺與氣」：溺、同尿。溺(によう)は尿に同じ。】

*張保春(ちょうほしゅん)という人はこのように言う。

「溺與氣」：溺 同 “尿”。張介賓(ちょうかいひん)：“此津液之爲溺氣也。腠理閉密則氣不外泄，故氣化爲水。水必就下，故留于膀胱。然水即氣也。水聚則氣生，氣化則水注，故爲溺與氣。”

*上の文章を読むとこのようになる。

【此(こ)れ津液(しんえき)の溺氣(にようき)と爲(な)るなり。

腠理(そうり)、閉密(へいみつ)なれば則(すなわ)ち氣(き)は外泄(がいせつ)せず。故(ゆえ)に氣(き)は、化(か)して水(みず)と爲(な)る。(*外にもれない気というものは、水になる。) 水(すい)、必ず、すなわち下(くだ)る。故(ゆえ)に膀胱(ぼうこう)に留(とど)まり、然(しか)り、水(すい)は即(すなわ)ち氣(き)なり。水(みず)聚(あつ)まれば、則(すなわ)ち氣(き)生ず。氣(き)、化(か)せば則(すなわ)ち水(みず)注(そそ)ぐ。故(ゆえ)に溺(によう)の氣(き)を爲(な)す。】

*この注は理屈のための理屈に思えてしまう。むしろ郭霽春(かくあいしゅん)氏の注のほうがわかりやすいと思う。

○07 天熱衣厚。08 則爲汗。

天(てん)熱く衣(ころも)厚ければ、08 則(すなわ)ち汗(あせ)を爲(な)す。

(解説)

*『甲乙經(こういつきよう)』という本では、07節の「熱」の字は「暑」の字となっている。

*馬玄臺(ばげんだい)という人は、このような注を入れている。

「天暑衣厚、則人之腠理開、故汗出。」

【天(てん)暑く、衣(ころも)厚ければ、則(すなわ)ち人(ひと)の腠理(そうり)開くが故(ゆえ)に汗(あせ)出(いず)る。】

*『靈樞』の森を歩いてみませんか。 毎月休まず第二日曜午前10時から12時まで、大阪府鍼灸師会館3階です。 勉強会の案内につきましては本会ホームページをご確認下さい。

次回は 6月8日(日)、『靈樞』「血絡論(けつらくろん) 第三十九」です。

八月の「靈枢勉強会」は特別講義となります。 つきましては 6月7日(土) 締切りで広く演題を募集いたします。 その案から一つを選んで篠原先生にご講義いただくリクエスト形式といたします。

大阪府鍼灸師会のホームページにある、お問い合わせフォームに件名「八月特別講義 演題の件」と書いて、あなたがリクエストしたい具体的な「演題(案)」とその概要をお知らせください。 6月8日(日)に靈枢勉強会に参加される方は、 その場に案をお持ち下さっても構いません。 学びたいことあるといいな。 演題(案)の例、こんな感じでしょうか。

(例) 演題(案)「氣(き)の医学について」 中国医学の「氣」のイメージ、藏の氣などについて

(靈樞のテキスト〈日本内經医学会 発行、明刊無名氏本〉は現在1冊の在庫があります。1冊1,600円です。受講申し込み時、または当日、受講受付けにてお問い合わせください)

(靈枢勉強会世話人 東大阪地域 松本政己)

！ 令和7年度 6月度霊枢勉強のご案内(ハイブリッド開催)

令和7年度6月度研修事業のお知らせです。
下記の要綱をご覧ください、会員の先生方におかれましては、
万障繰り合わせの上、ご参加お待ちしております。
詳細は、研修会案内をご参照ください。

取得単位

(公社)大阪府鍼灸師会生涯研修〈2単位〉
(公財)東洋療法研修試験財団生涯研修講座〈2単位〉

演 題 霊枢勉強会 第三十九「血絡論」(ハイブリッド開催) **講師** 篠原 孝市 先生 日本鍼灸研究会 代表

会 場 大阪府鍼灸師会館 3階

受講料 会 員:1,000円 (日鍼会・大鍼師会・柔整師会・全日本鍼灸学会の会員含む)

準会員(学生以外):1,000円

会員外:2,000円 学 生:無料

※会費種別は自己申告制です。運営から種別の確認があった場合、速やかに確認できる様にご準備下さい

日 時 令和7年6月8日(日)

参加申込み方法 先着順(会館参加 30名 WEB参加 300名)

QRコード・当会ホームページ manaable(マナブル) から参加申し込み後、
受講料をお振り込みにてお支払い下さい。



<https://harikyu.manaable.com/>

お申込み・お振込み締切 6月度 6月4日(水)

※申し込みは、事前参加申し込みと、入金の確認(WEB受講)で完了となります。
以前は、前日に講義資料送付メールと当日朝にリマインドメールを送付しておりましたが、新システム(manaable)では、
研修3日前に最終の案内をお送りいたします。
事前にスムーズに対応していただけるよう、当日の参加方法と講義資料、ダウンロード方法をお知らせ致します。

➤ 当日の参加方法

■ 会場参加

- ①会場にて出席 QRコードをスマートフォン等で読み取り
- ②いつも通り、会場で受講
- ③退出時も退席用 QRコードを読み取り(受講完了確認)

■ WEB参加

- ①ログイン - manaable ←左記サイトに入りログイン
 - ②「自分の研修」から申し込んだ研修会选择
 - ③「受講する」を選択(開始1時間前9時より有効となります)
- ※実際のZoom接続は30分前開始となりますので、
9時30分以降に③を実行して下さい。
- ④Zoomにて受講

➤ 講義資料ダウンロード方法

- ①会場参加・WEB参加ともにログイン
- manaable ←左記サイトに入りログイン
 - ②「自分の研修」から申し込んだ研修会选择
 - ③「受講する」を選択し、研修詳細画面の下部「講座概要」欄の
講座資料に記載のPDFを選択し、ダウンロード(添付参照)
- ※今まで通り、講義資料のダウンロード開始は、前日の21時以降
となりますこと、ご理解下さい。

※WEBセミナー会場へのセキュリティ強化と入室をスムーズに行うため、
申し込み時の氏名と振り込み時の氏名およびZOOM入室時氏名を統一
して本名にてご登録いただきますようお願い致します。

※受講時ビデオonをもって単位認定いたします

※取得単位は、講習会終了後に当会にて登録作業を行います

※単位認定は講習前後15分以上の遅刻・退室により付与致しかねます。ま
た受講状況により付与できない場合がございますのでご了承ください
《WEBセミナー受講上の諸注意》 詳細は「WEB聴講利用手引書」をご
覧下さい

※撮影ならびに録画・録音はお断りいたします。

※当日使用するZOOMミーティングのソフトウェアをご自身が使用するデ
バイス(PC・タブレット・スマートフォン)に事前インストールをお願いい
たします。また、最新版への更新をお済ませください。

※当日は参加者確認に時間を要するため、準備が出来た方は早めに受付を
行って頂きますようご協力お願いいたします。20分前から入室ができる
よう準備いたします。

※最後に質疑応答の時間を設けますが、講義中もチャットにて随時質問を
お受けいたしますので、主催者の指示に従って頂きますようお願い申し
上げます。

※講習時はビデオon、マイクoff(ミュート)にご協力ください。

■ ご不明な点やお問い合わせは『大阪府鍼灸師会』まで

連絡先: TEL 06-6351-4803 FAX 06-6351-4855
E-MAIL: study@osaka-hari9.jp

(研修委員会 清藤)



いっしょに、いこう!
大阪・関西万博